

2025年6月26日（木）

老球の細道 874号

会津総合スポーツ大会（バスケットボール競技）U-15 大会観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

「暑かったら、もっと熱くなれ、そして人間的に厚くなれ」の季節がやってきた。大会は熱中症が心配される気温30度を超える真夏日にも関わらず、多くの保護者などの観戦者が駆け付け、駐車場を探すのにもひと苦労であった。

かつて中学校のスポーツ少年団大会は、中体連の会津予選が終了し、県大会に出場できなかった中学校が、スポ少用のチーム名に変更し（メンバーは中学校単独チームのまま）試合をした。しかし、中学校の部活動改革が進行している中で、多くのクラブチームが創設され、いつの間にかクラブチームが多数を占める大会となった。

クラブチームは多くは多国籍軍団となり、色々な中学校の選手が寄せ集まり、かつての中学単独チーム大会の頃から比べるとレベルアップは顕著であった。バスケットボールが好きで、もっと上手になりたい、強くなりたいという気の合った仲間が集まり、熱心な指導者のもとで定期的に練習を積んでいけば当然レベルは上がるだろう。

今回の大会を久しぶりに観戦させてもらったが、特に全日本チームの影響かどうかわからないが、3Pシュートを意味もなく多用することが多く、バスケットボールがこの世に誕生してから今までずっと変わらないオフェンス不滅の原則「ゴールの近くでシュートをする」ということが忘れられていたような気がする。

また、個人技中心のチームが多い。バスケットは「1：1のスポーツではなく5：5のチームスポーツである」。チームの中のタレントが1人で攻撃できるような相手チームディフェンス力であれば問題ないのだが、それができなくなったときにチームプレイが必要になる。チームプレイはそもそも、オフェンスでは1：1を活かすためのもので、ディフェンスでは1：1で守れないためのものであり、決して個をないがしろにする戦術ではない。

バスケットのゲームはカオスの状態が日常である。チームに「チームルール」がないと、スペースが狭くなったり、タイミングが合わなくなったりしてターンオーバーが増える。

私はミニ、中学レベルにおいて、カオスの中でチームが一丸となってプレイするための「チームルール」を作るチームファンダメンタルを下記のように考えている。

チームオフェンス・ファンダメンタルは①パス&バスケットカット②ドライブ&スペーシング③リバウンドから速攻のキャスティング（走るコース、役割分担）。チームディフェンス・ファンダメンタルは①5人のディフェンスポジション（通称シェルポジション）②ギブ&ゴーに対するポジション③ドライブに対するヘルプ&ローテーション等である。

ミニバスをはじめて1年が経つ孫達は、試合に負けたり、自分のプレイがうまく出来ないと悔しがるようになった。そんな時、孫と一緒に近くの田んぼで獲ったオタマジャクシを見せる。水槽の中でオタマは最近足を出してきてカエルになりつつある。孫に言う「この夏自分を『カエル（変える）』チャレンジをしよう」。悲しいかな爺様ギャグは響かない。